

アルゼンチンアリ国内侵入地からの分散による侵入と初期防除 ～橋を渡ったアルゼンチンアリ～

山田 由貴 (愛知県環境調査センター企画情報部)

愛知県内では、特定外来生物のアルゼンチンアリ (*Linepithema humile*) の生息が 2005 年に田原市内で初めて確認されて以来、名古屋市港区、豊橋市、蒲郡市、犬山市、東海市、飛島村で確認されている。犬山市を除く 6 市村への侵入は、非意図的な人為的導入によるもので、犬山市は、国内侵入地からの分散 (アルゼンチンアリの自力歩行) による侵入事例である。本報では、一級河川の対岸から橋を渡って侵入するアルゼンチンアリの初期防除と侵入監視といった、前例のない取組について報告する。

犬山市は、愛知県の最北端に位置しており、北は木曾川を境に岐阜県と隣接している。対岸に位置する岐阜県各務原市において、2007 年 3 月にアルゼンチンアリの生息が確認された。当該地ではアルゼンチンアリ防除モデル事業 (環境省 2009 年～2011 年) や地域住民との共同防除に取り組んでいるが、2021 年 7 月に各務原市から、県境となる木曾川を跨ぐ犬山橋付近までアルゼンチンアリが拡大しているとの情報提供があり、調査したところ、同年 8 月に犬山市側の橋台上部及び堅壁下部でアルゼンチンアリが確認された。

犬山橋は、橋長 223.15m、幅員 16m の鋼トラス橋で、全国でも珍しい鉄道と道路の併用橋として利用されていた歴史がある。2000 年には鉄道専用の橋として改修されたが、改修の際、既存の橋の構造・材料の改変が少なくなるように配慮され、床版の路肩には道路のアスファルトが残っている。この構造のため、アスファルトの隙間に灌木・草が生えるなど、アルゼンチンアリが生息できる環境が整ったことにより、アルゼンチンアリは、犬山橋を侵入経路とすることが可能となったと推察される。

2021 年 8 月の確認当初は、県及び犬山市で調査及び防除を実施し、同年 12 月には専門家によるリモート調査で分布を把握した上で、防除範囲を検討した。また、2022 年 4 月から概ね月 1 度の頻度でアリ類の生息状況調査を開始し、再侵入を早期発見する体制を模索した。2022 年 4 月から 2023 年 3 月まで年 2 回の侵入を受けたが、都度、駆除に成功している。2024 年 4 月から各務原市側の橋台付近にベイト剤を設置したところ、再侵入は同年 11 月の 1 回のみである。さらに、2025 年 4 月からは、犬山市が侵入監視モニタリングを実施し、県環境調査センターが技術的支援を行っている。本年 8 月末現在、再侵入を受けておらず、侵入確認から 4 年間、定着を退けることに成功している。

このたびの事例で得た知見を基にマニュアルを作成し活用することで、侵入監視及び初期防除体制の迅速な構築及び継続維持を可能とし、アルゼンチンアリを確実に防除できるようにしたいと考えている。

キーワード：特定外来生物，アルゼンチンアリ，分散，侵入監視モニタリング，初期防除